

ロヒンギャ難民に対する理事長談話

現在、ミャンマーの主にラカイン州北部に住む少数派民族ロヒンギャの人々が、隣国バングラデシュに避難し、難民化している事態が起きております。

私たち全日本仏教会は、仏陀の和の精神を基調として世界平和の進展に寄与することを活動目的としております。報道等で伝えられる不幸な事態に対し、深い悲しみをもって、被害を受けている人々に思いを馳せております。

釈尊は、「実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」（『ブッダの真理のことば』）と語り、憎悪は憎悪によって止むことはなく、暴力に対して反対の姿勢を示されました。

私たち全日本仏教会はこの不幸な事態に対し、苦しみの中にある難民の人々が一刻も早く平穏な暮らしに戻り、平和的解決が実現することを願いここに人道的支援を行っていくことを表明いたします。

2018（平成 30）年 3 月 16 日

公益財団法人 全日本仏教会

理 事 長 石 上 智 康